

前月末の子どもの姿

低月齢児：寝返りが盛んになる。・つまむ・たたく・引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。または、口へ物を運ぶ。・知らない人を見ると、表情を硬くしたり、泣いたりする。

中・高月齢児：机などでつかまり立ちをし、つたい歩きを盛んにする。・喃語、指差しが盛んになる。・衣服の着替えを、心地よく感じる。・人見知りする。

ねらい：姿勢を変えたり移動したり、様々な運動機能を使い、身体を動かして遊ぶ。・季節の変わり目を心地よく過ごす。・秋の自然に触れながら、保育者と一緒に秋の戸外遊びを楽しむ。

安全・健康：朝夕の気温差により、咳や鼻水などの症状が見られる子がいるので、健康状態を把握する。・開放感を味わい、十分に体を動かして遊べるスペースを確保する。また、玩具の点検は毎日行う。
・動きが活発になるので、危険がないように環境を整える。

	内容	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助
養護	<ul style="list-style-type: none"> ○生活リズムを大切に、生理的欲求を満たし、安心して生活できる ○信頼できる保育者との触れ合いの中で、愛着を深める。 ●気温の変化に伴い、自分のリズムで生活する。 ●オムツが汚れたら、清潔にもらい、気持ちよさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○肌寒い日もあるので、衣服の調節や室温に留意する ○玩具の破損がないか毎日点検し、喉に詰まるような大きさの玩具は置かないなど、月齢、発達に応じて玩具の再点検を行う。 ●室内外の温度・湿度・換気に留意し、外気との差が5℃以内の過ごしやすい環境をつくる。 ●落ち着いて遊べるようにスペースを区切る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○●風邪をひく。 ○●体調が悪いことを泣いて伝える。 ○●泣いて保育者の後追いをする。 ○●保育者に微笑みかける。 ○●抱っこを求める。 ○●着替えをすることを嫌がる ○午前寝をするため、午睡時間が遅れる。また、寝起きに泣く。 ●オムツが汚れたことが気になり動けない。 ●オムツが汚れても気にせず遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体調が悪い子は戸外に出ないなど、個々に応じた方法で対応することで、風邪の悪化を予防する。 ○目を見て「○○ちゃん、先生いるよ」と名前を呼び、大丈夫だよという気持ちで抱っこしたり、膝に乗せて触れ合い遊びを楽しんだりする。 ●体調が悪い子は戸外に出ることを控えるなど、個々に応じて対応し、風邪の悪化を防ぐ。 ●子どもが抱っこを求めるなど、甘えたいという気持ちを十分に受け入れ、情緒の安定を図る。 ●「気持ちいいね」などと笑顔で声をかけて着替えさせ、心地よさが味わえるようにする。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ○安心できる環境の下で、腹這いやずり這いで探索活動を楽しむ。 ○音を鳴らしたり、動かしたりして楽しむ。 ○語りかけや、あやし遊びに、微笑んでたり喃語を発したりする。 ○気持ちや要求を、全身で表現する。 ●傾斜や段差のある道を歩くことを楽しむ。 ●戸外に出かけ、身近な生き物や自然物を見たり触れたりする。 ●簡単な言葉の意味が分かり、絵本や紙芝居を読んでもらうことを喜ぶ。 ○●食べることを楽しみにし、自分で食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○移動運動が盛んになってくるので、思いきり体を動かして遊べるような、安全で広いスペースを確保する。 ○音の出る玩具、動かして遊べる玩具など、子どもの状況に応じて発達を促すような玩具を用意する。 ●子どもたちが乳母車から降りて安全に遊べるような散歩コースを調べておく。また、保育者同士、どの子どもを確認するか話し合い、子どもの姿に背を向けないようにし、その場の広さに応じて分散した位置に立つ。 ●優しい笑顔、見守り、語りかけにより、安心して保育者に語りかけ、遊べる雰囲気をつくる。 ○●こぼれてもよい食事環境を整える。 ○●楽しい環境の中で、手づかみでおやつや給食が食べられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物を触ったり、なめたりして確認する。 ○音の出る物を追いかける。 ○触れ合い遊びを喜ぶ。 ○声を出して笑う。 ●転倒して泣く。 ●手をつなぎながら歩く。 ●手に取った物を眺めたり、口の中に入れて確認したりする。 ●好きな遊びをくり返し楽しむ。 ●生き物や自然物を見て、指差したり触ったりする。 ●「あーあー」と喃語を発する。 ●保育者のまねをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話したいという気持ちが増すように、表現豊かに言葉を返し、嬉しくなるような応答をする。 ●道を歩く際は転んでケガをしないよう、すぐに手をつなげるところで見守る。手をつなぐなど安心して歩ける環境をつくる。 ●個々がどんな玩具に興味を持っているかを把握し、一緒に遊びを楽しむことで信頼関係が深まるようにする。 ●言葉をまねて言うなど、発語を楽しめるようにする。 ○●保育者がそばで「もぐもぐね」と口を動かす姿を示し、そしゃくすることを覚えられるようにする。 ●食品摂取票をこまめに家庭と確認し、常に把握できるようにする。

職員との連携：薄着で過ごす大切さを確認し合い、気温の変化に合わせて、一人一人の体調や活動に配慮した衣服の調節ができるように共通理解をする。・探索が活発になるので、室内、戸外、散歩先での安全点検、子どもの特性、行動の把握を十分にする。・子どもの気持ちをしっかりと受け止め、遊びに集中しているときには見守る。

家庭との連携：薄着で過ごすことの大切さを伝え、調節しやすい衣服を準備してもらう。・いろいろな物に興味を示して手を出すので、子どもが好奇心があること、成長する上でのリスクなどを伝える。

<自己評価>

<取り組みの状況と保育士の振り返り>

<食育の取り組みの状況と振り返り>

<p>・天気の良い日は散歩や公園など戸外遊びなど充実した活動ができたが、雨天の時に十分な活動ができなかった日もあったので、雨天の活動を工夫して考えていきたい。また、成長と共に個々の発達段階も変わってきているため、その都度、保育者同士で話し合うようにした。</p> <p>・食事の進め方について、保護者に家庭の様子を聞きながら無理なく個々に対応することができた。食事だけでなく、日頃の家庭の様子や園の様子を伝えながら、保護者との信頼や相談などに応えていこうと思う。</p> <p>・全体的に子どもたちも生活リズムが整い、情緒も安定する。また、保育者との関係も良好だと思う。</p>	<p>・体調を崩して機嫌が悪い子がいたり、合同の活動が難しこともあったが、活動と活動の合間に歌や手遊び、絵本を読むなどの時間を取り入れることにより、友だちや保育者の様子を見て笑ったり仕草を真似して楽しむことができた。</p> <p>・高月齢児の活動では、上のクラスに参加し(異年齢児)、その子に合う玩具を借りて遊ぶように環境をつくると、じっくり遊ぶ姿が増えたと思う。</p> <p>・中月齢児は、はいはいやつたい歩き、よじ登りなど活発になり転倒などに気をつけて対応する。また、何でも口に入れてしまうので誤食に注意したり環境を整備するようにした。</p>	<p>・授乳の子は、睡眠のペースを崩さないように授乳をすすめる。また、飲みムラがある子もいるので、毎日の授乳状況を、きちんと伝達する。</p> <p>・食材摂取票を定期的に確認し、食べられるようになった食材を保育者と栄養士とで把握しながら、こまめに連絡を取り合い園と家庭とで一貫して進める。</p> <p>・離乳食は子どもの食べ具合と月齢に合った食事形態や分量にして、一人一人に合った離乳食を提供できるようにした。</p> <p>・完了食と乳児食の子どもは、「もっと食べたい」という気持ちを大切に、分量を個々に合わせ、おかわりできるようにする。</p>
---	--	--